

## 2 Hondaのサステナビリティ

基本的な考え方 ..... 04

サステナビリティマネジメント体制 ..... 05

### > マテリアリティ ..... 06

ステークホルダーエンゲージメント ..... 07

Hondaの取り組みとSDGs ..... 10

外部からの評価 ..... 12

## マテリアリティ

### ステークホルダーの視点を踏まえた課題評価

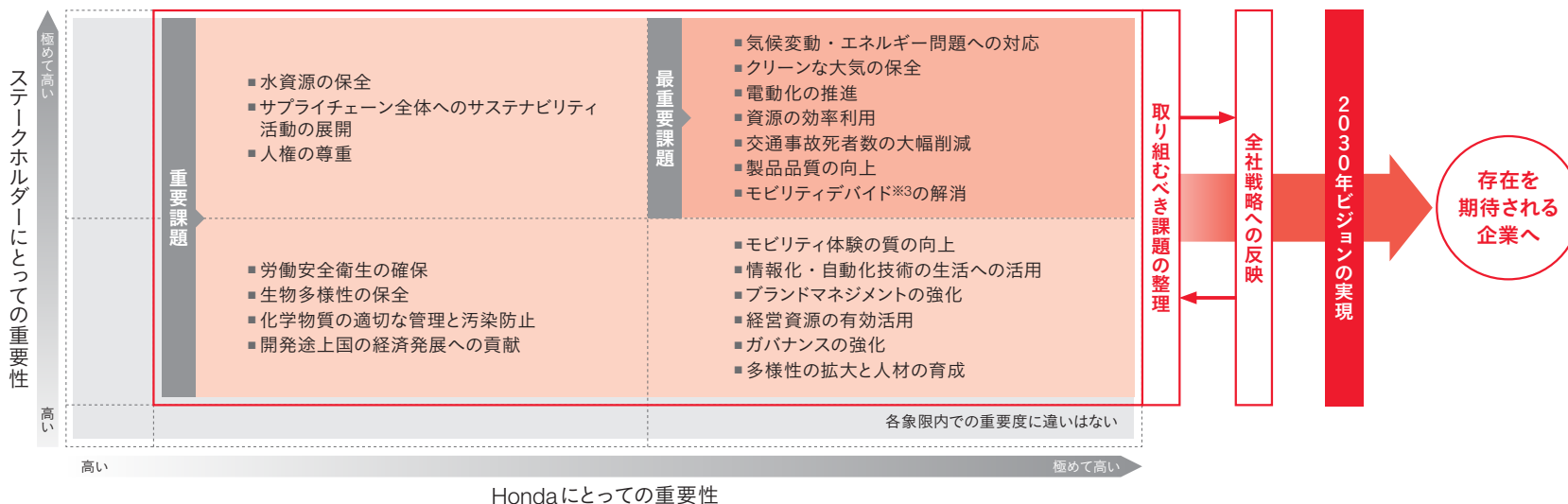
Hondaフィロソフィーを基点とした長期ビジョン達成に向けては、取り組むべき重要な課題をHondaとステークホルダーの2つの視点から整理しています。「マテリアリティマトリックス」はそうした課題を整理するための代表的なフレームワークであり、これを作成・活用することで、課題の網羅性を確認し、位置付けを明確化しました。

マテリアリティマトリックスの作成にあたっては、課題の抽出とその重要性の評価という2段階で行いました。課題の抽出は、社内各本部のメンバーによる議論に加え、技術革新の状況、SDGs※1やパリ協定に記された社会課題も踏まえ、グローバルかつバリュー・チェーンの観点で実施しています。そしてこれら課題の重要性について、代表的なESG※2評価機関や、企業の

サステナビリティに精通した欧米のNGOとの対話などを通じて、ステークホルダー視点での評価を行いました。そのうえで、コーポレート統合戦略会議などにおいて、経営メンバーが評価・確認をしています。

こうして、「カーボンフリー社会の実現」や「交通事故ゼロ社会の実現」などを、モビリティカンパニーとして優先的に取り組むべき重要課題として可視化することができました。これらは、SDGsの目標13「気候変動に具体的な対策を」、目標7「エネルギーをみんなに。そしてクリーンに」や目標3「すべての人に健康と福祉を」などの達成に貢献するものと考えています。このように、ステークホルダーの視点を踏まえて特定された重要課題は、ビジョン達成のための全社戦略に反映され、各事業活動へ織り込まれていきます。

### マテリアリティマトリックス



※ 1 SDGs: Sustainable Development Goalsの略。2015年に国連持続可能な開発サミットにおいて採択された貧困や飢餓、エネルギー、気候変動、平和的社会などに関する国際目標。

※ 2 ESG: Environment (環境)、Social (社会)、Governance (ガバナンス)の略。

※ 3 モビリティデバイド: 移動手段の違いによる人の生活の格差。